

# やさしいは「未来」。

豊岡市「コウノトリ育むお米」の学校給食

「コウノトリ育むお米」は、コウノトリや多様な生き物を育む農法でつくられたお米。豊岡市の小学校では、給食のごはんは毎日「コウノトリ育むお米」だ。そのお米の田んぼに囲まれた新田小学校。「今朝、登校道でコウノトリがカエル食べてたー」「最近、あの巣に赤ちゃんが産まれたみたいー」そんな子供達の声が日々聞こえる。

「このあたりの畦畔は緑色。雑草を全部人が刈ってるからね。正直大変やけど、除草剤で茶色になってる畦畔が並ぶより気持ちがいい」というのは農家の川越雄一さん。

コウノトリが優雅に空を飛ぶ姿、緑色の畦畔が広がる田園風景、子供達が田んぼに入ったときの素足にあたったミミズの感触、そして給食のごはんの味。「コウノトリ育むお米」をつくることは、そんな風景や記憶を残していくことにもつながっている。

2 添別書仕様

人と環境にやさしい農業

やさしいは、想うこと、満たされること。



兵庫県  
Hyogo Prefecture

# やさしいは「協働」。

農家とともに環境に配慮した酒造りをする神戸酒心館

兵庫県産の酒米を使った酒造りを続ける神戸酒心館。その酒米が「温暖化や後継者不足などの問題で深刻な状況になりつつあると実感しています」と語るのは、代表の安福武之助さん。酒米の生産を持続可能にしていいため、自分たちに何ができるのか。そう考えながら、カーボンゼロの酒造りやボトルの再資源化など、環境に負担をかけるない取り組みを続けている。

「ただ、自分たちができることはあくまで酒造り。酒米のことは農家さんと一緒に考えていきたいですし、販売者や消費者のみなさんとも一緒に取り組んでいきたい」と安福さん。その一歩として、兵庫県の有機米を使った酒造りも始めている。

おいしいお酒をずっとつくり続けるために、生産者や消費者と共に、持続可能な農業を目指す。

米の〜米米  
満

人と環境に  
やさしい  
農業

やさしいは、想うこと、満たされること。



兵庫県  
Hyogo Prefecture